



おおや



1月号 R8.1.8

発行責任者

校長 田崎 守

学校教育目標「心豊かでたくましい子の育成」

上尾市立大谷小学校 上尾市大字大谷本郷 528 電話 048(781)0120

校内掲示物から願う「飛躍」

冷たく澄んだ空気の中、元旦は穏やかな天候に恵まれ、新年を迎えました。ご家庭では、どのようにお正月を過ごされたでしょうか。今年もよろしくお願いいたします。

令和8年(2026)年の干支は丙午です。丙午は、「火の陽気さ」と「午の勢い」が重なり、非常にエネルギッシュな年と言われているそうです。今年は、情熱をもって、新しいことに挑戦したり、これまで計画し、温めていたことを思い切って実行したりするような行動力溢れる年になることを願っています。

私は学生スポーツを見るのが好きで、年末年始は、高校駅伝や大学駅伝をテレビで観る機会がありました。その中で、走り終わった後のインタビューや大会前後に放送されるこれまでの取組を紹介する特番などを観ていると、監督や保護者、仲間から度々指導をうけたり、支えられたりする中で、今の自分があるということが多く紹介されていたように感じました。

私は、このようなシーンから、ふと校内にある掲示物のことが思い出されました。その掲示物には、「啐啄同機（そったくどうき）」という禅語が書かれています。この言葉には、卵から雛が孵る時、雛が殻の中から外に出たいタイミングで殻をつつき、その音を聞きながら、親鳥も殻の外から殻をつつくことで、雛が孵ることを助けるという意味が込められています。卵の様子をよく見たり、殻から聞こえてくる雛のつつく音を聴いたりしている親鳥にしか、できないことです。

この言葉は、鳥の孵化に関することだけではなく、私たちが生きていく中で、人の言動を普段からよく見て、声を聴く中で、適時に声をかけたり、指導・支援したりすることが、成長には欠かせないものだという事に繋がります。先程のスポーツ選手を育成する指導者、子供たちと日頃から関わる保護者、学校教育で指導している私たち教師にも、忘れてはならない大切なことだと思います。

この言葉が今もなお、本校の一室に掲示されているのは、これから先も学校として大切にしたいこととして、伝えられ続けているからだと思っています。今後も、本校の教育活動でも教師と子供が啐啄する場面が多く見られ、子供たちが飛躍していけるように取り組んでまいります。

今年も、保護者、地域の皆様のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。



教育相談室内の掲示物